前回の課題文章につけられた吹き出しコメントを読んだ。→はい　いいえ　未返却　読めない\*

＊スマートフォンやタブレットでは、吹き出しコメントが表示されない場合があります。その場合はパソコンで確認してください。

前回の模範文章を読んだ。→はい　いいえ

（当てはまる回答だけを残してください。評価には含めません。指導の参考にします。）

【第７回】

幼少期の競技スポーツ教育

－束縛と権威主義の側面から－

1A193008

アンダーランド　ジェイク

　近年、幼少期の子供に競技スポーツを習わせることが一般的になってきたが、子どもに強制的にスポーツを習わせることにはいくつかの弊害が伴う。以下、競技スポーツを習わせることが幼少期の子供にどのような悪影響を与えるかを見ていく。

　まず、競技スポーツ教育は多くの時間を要する。その為、競技スポーツを真剣に学ぶ子は自由な時間を奪われ、束縛されてしまう。勝田熱美（2019）は、選手を目指す子供のスポーツ教育について次のように述べている。

スポーツ選手になるためには、相当の時間、練習をしなければなりません。早くにスポーツを始めれば、遅く始めた子どもより早く上達するので、活躍のチャンスも増えます。p.12）

　勝田は競技スポーツで上達する為には早期から長時間練習しなければいけなく、また子どもが上達するにつれて活躍の機会も増えていくと説明する。つまり、子どもは上達する為に大量の時間をスポーツにつぎ込み、上達すると活躍の場が増えてさらに時間を取られてしまい、かくして子どもが自由に過ごす時間は失われるのである。

　次に、スポーツは幼い子どもに権威主義的な人間関係を叩き込む。勝田は子どもとコーチの関係について次のように言っている。

スポーツ・クラブでは、コーチに言われたことをしっかり守るよう叩き込まれています。（p.13）

　勝田はコーチと子供の間に権威主義的な上下関係があることを述べた。このような権威主義的関係は本来幼少期の子供が学ぶべきものではなく、幼少期の子供に絶対的服従を刷り込むことの心理的影響は良好ではないと考えられる。

　以上より、幼少期の子供に競技スポーツを習わせることは好ましくない。

参考文献

勝田熱美（2019、7月）「我が子の才能を早期に見出して伸ばしたい－未来のスポーツ選手を目指して」『明日のチャンピオン』7月号、児童能力開発社、pp. 12-13

作業　ブロック引用部分と自分の論とは、どのような関係ですか。授業で示されていた例を参考にして書きましょう。

　【　分析の対象そのものを示している　】

コメント欄

第5回の内容をしっかりと反映させるように特に注意しました。

評価のポイントと評価点　　　　　　　　　　　　　　　　　指導員（　　　　　　　）

〔　14 点中　 　　　点〕